

### テーマ設定の理由

・夏まつりで盆踊りを踊る中で、保育者がたたく太鼓に興味をもっている姿が見られることから、身近な音を楽器などを通して体感したり、楽器や身体で音を表現したりして音への興味を深めていくことを目的とした。

### 用意した環境

#### ●準備したもの

- ・少人数でゆっくりと話ができる場として、保育室とは別にホールに話し合いの場を設定した。

### 探究活動を実践する

#### ●活動内容

- ・クラスを5グループに分けて、それぞれ同じ質問をして話をする（質問1）音ってなに（質問2）好きな音（質問3）嫌いまたは苦手な音（質問4）目を閉じて10秒間、何の音が聞こえた？

#### ●子どもたちの様子

- （質問1）波音、喋る声、カメラのシャッター音、カーテンを開ける音、動物・虫の声など普段耳にする音を擬音語を交えながら答えていた。
- （質問2）タンバリンなど楽器の音、綺麗な音、好きな歌など耳障りの良い音を答えていた。
- （質問3）大きな音、泣き声、何かを引きずる、引っかくような音などを不快に感じる音と答えていた。
- （質問4）誰かの声、園長先生の咳、草の音、玩具の音など（質問1）では出てこなかった音を答えていた。
- ・少人数での取り組みであったため、普段はあまり意見を言わない子ども、たくさん答える姿が見られた。

### 活動名：音ってなに？

活動のねらい：音について、どのように感じているか、どう考えているか話し合いながら意見を深める



### 保育者の振り返りと気づき

#### ●園の先生から

「音ってなに？」という抽象的な質問をしたが、家族と見たアニメなどを思い出しながら子どもたちなりに答えようとする姿があった。少人数で話し合ったことで、緊張感も少なく、一人一人の声を拾うことができた。好きな音はたくさん出たが、好きな音でもたくさん合わさると嫌いな音になるという意見も出たことは、子どもたちならではの発想だと感じた。日常に音があふれているので、子どもたちとちょっと“音”を楽しんでいきたい。

活動名：太鼓や身近な楽器を叩いてみよう、鳴らしてみよう

ねらい：いろいろな楽器に触れて“音”を感じる

## 用意した環境

### ●準備したもの

- ・和太鼓、バチ（太鼓、木琴用）、マレット、大太鼓、小太鼓、タンバリン、トライアングル、鈴、カスタネット、木琴、鉄琴、プレイウッドクラベス、ピアノ
- ・自由に楽器に触れることができるよう、大きさや種類の異なる楽器を十分に間隔をあけて設定した。

## 探究活動を実践する

### ●活動内容

- ・太鼓や身近な楽器を叩いたり、鳴らしたりする。（6グループに分かれる）
- ・活動後「①好きな音はあった？」「②苦手な音はあった？」と投げかけた。

### ●子どもたちの様子

- ・いつもは触れることができないピアノを嬉しそうに弾いたり、興味をもった楽器に触れたりしていた。色々な楽器を試す中で、「みんなでやろう」と提案し即席の合奏が始まる場面も見られた。
- ・投げかけ①に対して、木琴と鉄琴の音が好きな子が多くいたが、それぞれ好みの“音”には違いがあり自分の気持ちを言葉にして伝えていた。
- ・投げかけ②に対して、「大きい音が苦手」、「パチパチうるさくて苦手」「音が小さいと嫌」等、多くの意見が出た。友達の話聞いて「そう思うんだ」と自分との違いに気づく姿も見られた。



## 保育者の振り返りと気づき

### ●園の先生から

- ・最初は不安そうにする姿も見られたが、自由に鳴らしてもよいことがわかると自ら楽器に触れ、試しながら鳴らすことを楽しむことができた。
- ・一人一人がじっくりと楽器と関わるだけでなく、リズムを叩くうちに自然と友達と心を通わせ、音を合わせる姿が5歳児ならではのと感じた。
- ・自分の好きな音、苦手な音に出会える体験がとてもよかった。「こんな音なんだ！」という子どもの気づきの言葉を聞いて嬉しい気持ちになった。

活動名：身近な音・好きな音を探してみよう・鳴らしてみよう

活動のねらい：興味のある場所（園内、戸外）で音探しを楽しむ

### 用意した環境

#### ●準備したもの

- ・マジックペン（一人一本）
- ・音探しの場を保育園内、園庭、グラウンド、近隣公園に設定する
- ・子どもたちが自由に音探しをすることができるよう、各グループに職員を2名配置し、自由に安全に活動ができるようにする

### 探究活動を実践する

#### ●活動内容

- ・保育園内、園庭、グラウンド、近隣公園の好きな場所で、それぞれ身近な音・好きな音を探したり、鳴らしたりする（5グループに分かれる）
- ・各グループ30分程度の時間で行った。
- ・活動前「身近な音・好きな音を探してみよう、鳴らしてみよう」「保育園内、園庭、グラウンド、近隣公園の好きなところで音探しをしてみよう」と投げかけた。

#### ●子どもたちの様子

- ・グラウンドの柵を叩き、「こっちとそっちでは、音が違うかな？」と話し合っている姿が見られた。
- ・保育室に敷いてあるマットをペンで叩き「ポンポンポン」、ジャンプをしてみて「バンバン」。「なんか違うね」と違いを感じていたり椅子の金属部分を慣らし、「チャンチャンチャン」って音がすると気づき『おもちゃのチャチャチャ』を歌ったりする姿が見られた。
- ・葉っぱをちぎり「ビリビリって鳴った」と言葉にしていた。



### 保育者の振り返りと気づき

#### ●園の先生から

- ・2～5人程度のグループに分かれて音探しをしたので、友達の意見を聞き、自分も試してみようとする姿が見られた。
- ・ペンを持って音探しを行ったが、ペンだけでなく石や手など別の素材でも叩いてみることで音の違いを感じたり、響きに気付いたりする姿が見られた。
- ・グループのメンバーによって、感じたり気づいたりする“音”の違いが大きいと感じた。また、30分では行きたい場所を回り切れないグループもあった。グループのメンバーを入れ替えて再度活動を計画してみても面白いと感じた。

活動名：和太鼓を体験してみよう

活動のねらい：太鼓に触れ、全身で音を感じる

### 用意した環境

#### ●準備したもの

- ・大太鼓（3台）、うすずみ台（3台）、八丈台（3台）、締太鼓（1台）、立締台（1台）、バチ（23人分）
- ・広さのある1階ホールで実施する
- ・和太鼓の講師に来園して指導してもらう

### 探究活動を実践する

#### ●活動内容（全3回/各1時間実施）

- 1回目：バチの持ち方を教わり、太鼓を体験する。リズム打ちも教えてもらう（6グループに分かれる）
- 2回目：前回のリズム打ちや、友達と一緒にリズムを合わせて叩く経験をする
- 3回目：取り組みで叩いたリズム打ちを園児みんなの前で披露したり、和太鼓の演奏を見たりする

#### ●子どもたちの様子

- ・太鼓の音を聞いて「心臓が震える」「体に響く」など全身で感じ取ったことを言葉で表現する。
- ・太鼓の音がそろったときの心地良さを感じていた。
- ・和太鼓奏者の演奏を真剣な表情でじっと見ていた。「太鼓ってすごい」と話す子もいた。



### 保育者の振り返りと気づき

#### ●園の先生から

- ・本物の和太鼓、プロの和太鼓の音に触れることができ、普段の楽器や音探しの活動だけでは感じられなかった振動、響きにも気が付くことができてよかった。
- ・2回目では、リズム打ちを真剣な表情で行いながらも難しい動きも加わったことで、前回よりも懸命に叩こうとする姿が見られた。
- ・発表をする中で、友達と一緒に叩き、音が揃った心地良さを感じていた。観客に拍手をもらい、達成感を感じていた。